

# 学級活動(3)における授業づくりのポイント

野中 大輔

## 1 学級活動(3)における主眼について

学級活動(3)では、主眼1に本時でねらう「知識及び技能」と「目指す意思決定の仕方」を書きま  
す。また、主眼2には、主眼1を捉えるための主な活動や話し合いの観点を書きます。

### ○ 主眼の作り方の例

主眼1 ~ために、~であることを理解し、・・・目標を意思決定することができるようにする。

2 ~を基に・・・の観点から、・・・解決方法を話し合うことができるようにする。

【第5学年題材「みんなのために働くよさ」の主眼の例】 ①…主眼1 ②…主眼2

### 1 学習指導要領解説(47ページ 一部抜粋) 内容の焦点化

イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解  
清掃などの当番活動や係活動等の自己の役割を自覚して協働することの  
意義を理解し、社会の一員として役割を果たすために必要となることについて  
主体的に考えて行動すること。

① 捉えさせる内容は、自己の役割を自覚して協働する  
ことの意義。  
② 考えさせることは、社会(学校や学級)の一員として  
役割を果たすために必要となること。

### 2 学習指導要領解説(61ページ 一部抜粋) 内容の具体化

多様性を認め合いながら、他の児童と力を合わせて働くことの大切さや自分の  
よさを生かすことについて考えることができるようにするとともに、自分の仕事に  
対して工夫しながら役割を果たすことができるようにすることが大切である。

① 働くことの意義として、自分のよさを生かすという自己  
実現の視点が大切。  
② できるようにすることは、自分の仕事に対して工夫  
しながら役割を果たすこと。

### 3 学習指導要領解説80ページ 一部抜粋) 内容のつながり

〈中学年の指導〉  
日直や当番活動、係活動など、  
自分の役割を果たすことの意味  
や大切について考え、…

〈高学年の指導〉  
当番や委員会など、自分や周りの人のため  
に働くことの大切さについて話し合い、自分  
の役割や責任、自他のよさを考え、…

① 中学年は、当番等で役割を果たす意味を学習して  
いる。今回は、委員会で自分のために働く大切さ。  
② 中学年までには、自分の役割を果たすことの意味  
や大切さについて捉えている。

① 委員会活動においてやりがいをもっと感じられる自分になるために、友達や6年生の多様な考えを受け入れなが  
ら、委員会活動が自己の成長にもつながるということを理解し、個人目標を意思決定できるようにする。

② 事前の調査活動で自他が収集した資料を基に、キャリア形成の観点から委員会活動のよさを分類・整理し、なりた  
い自分になるための解決方法を比べ合ったりつくりかえたりしながら話し合うことができるようにする。

## 2 学級活動(3)とキャリア教育について

学級活動(3)は、キャリア教育の中核となる活動です。特別活動の「人間関係形成」「社会参画」  
「自己実現」とキャリア教育の基礎的・汎用的能力や発達的な特質を関連付けることが大切です。

特別活動は、キャリア教育の要としての役割を担います。特別活動におけるキャリア教育の中核を  
なす学級活動(3)の授業です。授業づくりでは、特別活動の三つの視点と、キャリア教育の基礎的・  
汎用的能力や発達的な特質との関連を明らかにします。この過程を踏むことで、キャリア教育の視点  
から見た本時学習指導の立場や、子供に身に付けさせたい内容を焦点化することができます。

	人間関係形成	社会参画	自己実現
人間関係形成 ・社会形成能力	多様な他者の考えを理 解し、相手の意見を聴き自 分の考えを伝える	自分の状況を受け止め、 役割を果たし協働して今 後の社会を形成する	人や社会との関わりか ら、必要な知識等に気付き 成長しようとする
自己理解・ 自己管理能力	多様な他者の考えを理 解した上で、自らの思考や 感情を律する	自分の特徴や価値観に ついて理解した上で、社会 に貢献する	よさや可能性を肯定的 に理解し、成長のために主 体的に行動する
課題対応能力	多様な他者の考えを理 解し、課題解決に向けた適 切な言動を行う	様々な課題を発見・分析 し、適切な計画を立てて課 題を処理し、解決する	自分らしい生き方をす るために、行うべきことに 意欲的に取り組む
キャリア プランニング能力	多様な他者の考えを理 解し、果たすべき様々な立 場や役割を計画する	働くことの意義や役割 を理解し、自分の人生に働 くことを位置付ける	多様な生き方に関する 情報を取捨選択・活用し、 主体的に判断する

※ 特に、「人間関係形成・社会形成能力」「課題対応能力」は、「人間関係形成」「社会参画」と、  
「自己理解・自己管理能力」「キャリアプランニング能力」は、「自己実現」と関連があります。

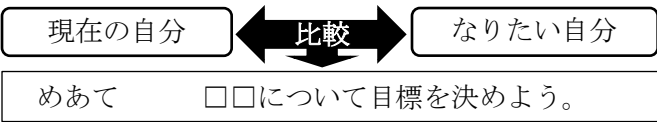


人間関係形成	・他者の長所や短所なども相対的に 捉えられるようになる ・他者と自分を比較して自分に自信 がもてなくなる
社会参画	・児童会活動の運営に参加するなど、 学校生活の改善向上に目を向ける ・学校全体の集団をまとめようとする 意識や活動も見られる
自己実現	・実践活動を振り返り、改善しながら これを達成しようとする感情や意識が 強くなる ・自分の役割や責任についての自覚 が深まってくる

第5学年の発達的な特質 一部抜粋  
参考：学習指導要領解説 29 ページ

### 3 学級活動(3)における一単位時間の学習過程について

学級活動(3)では、子供自らが将来の自分を思い描き、今していることと将来をつないで考え、目標をもつことや働くこと、学ぶことなどの意義を理解し、なりたい自分になるための具体的な目標を意思決定するといった学習過程を大切にします。

#### ○ 一単位時間の学習過程（波線は、ICT活用）

段階	子供の活動	○教師の具体的支援
導入	<p>○ 現在の自分となりたい自分を比べ、本時学習のめあてについて話し合う。</p> 	<p>○ 今の自分となりたい自分の相違点に気づき、「～できるようにになりたい」と前向き思考で課題を捉えさせるために、映像資料やアンケート結果を提示する。</p>
展開	<p>○ 目標をもつことや働くこと、学ぶことの意義について話し合い、なりたい自分についての思いや願いをもち、自分のよさや可能性をさぐる。</p> <p>※ 効果的な資料として以下が考えられます。          □これまでの自分や友達が努力している写真や映像          □身近な人(上級生、地域、家族)へのインタビュー資料</p>  <p>○ 自分のよさや可能性を生かすこのでできる解決方法について話し合い、考えを広げる。</p> 	<p>○ 過去の自分や身近な他者から、目標をもつことや働くこと、学ぶことの意義を考え、自己のよさや可能性をさくらせるために、写真やインタビュー動画を提示したり実際に話を聞かせたりしたことを基に、「共通点」や「相違点」といった観点から自他の取組を比較する場を設定する。</p> <p>○ 解決方法の意思決定に向けて考えを広げさせるために、他者の解決方法を参考にしながら、付加・修正できる場を設定する。</p>
終末	<p>○ 学習内容を振り返り、個人の目標を意思決定する。</p> <p>～な自分になるために、…を努力する。</p>	<p>○ 個人目標について自他の考えの共通点と相違点を明らかにさせるために、考えを共有する場を設定する。</p>

### 4 学級活動(3)における ICT の活用について ※ ICT の活用は主眼達成の手立てであり、目的にならないように気を付けます。

学級活動(3)では、ICT の活用について大きく二つの用い方があります。

- ・これまでの自分の振り返りや自他の考えの共有といった毎時間の文房具としての用い方
- ・子供が活動を記録し蓄積する教材（キャリア・パスポート）としての用い方

#### ○ 学級活動(3)における ICT を教材として用いる活動構成

